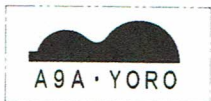


PEACE GOURD



9条の会・養老
会報、第22号
2020年1月10日
(部内資料)

”ピース・ガード” 「平和の瓢箪」

2019年を振り返り、2020年を展望する



世話人 中野 一美

2017年5月3日、安倍首相が「憲法9条に自衛隊を明記する改憲を成し遂げ、2020年には新憲法を施行したい」と表明。しかし市民運動や野党共闘の奮闘で昨年7月の参議院選挙では改憲勢力が2/3より4議席減り、改憲案を国会に提出する事ができませんでした。そればかりかモリ・カケに続き2大臣の辞任と、首相自身の桜疑惑とそれを隠すための公文書の廃棄と嘘の数々。日本の民主主義や優秀だった官僚機構がグチャグチャに。さすがに内閣支持率も急降下してきています。

しかし安倍首相は、桜国会終了直後の12月9日「必ず私の手で憲法改正を成し遂げたい」と21年9月までの総裁任期中の改憲に固執しています。早くこの内閣を変えなければこの国が、平和がグチャグチャになってしまいそうです。

さて昨年の2019年度の活動方針から私たちの会の1年を振り返ると・・・

- ①「安倍9条改憲」についての学習会をCDも活用して大小様々、沢山行う。
喫茶ピースガードを4回、総会での記念講演等計6回の行事に延べ63人が参加
- ②「安倍9条改憲NO! 憲法を生かす全国統一署名」(3000万署名)をできるだけ多く集める。決まった時間、場所での署名と宣伝を行っていく。
街頭での署名や宣伝行動は2回、延べ12人の参加で27筆、チラシ100枚
- ③会の趣旨に賛同してくれる仲間(会員一現在約70名)を増やしていく。
3人の方が入会されました。
- ④会報を2か月に1度をめどに発行を続ける。
3/20の会報第17号から1/10の22号まで6回、予定通りの発行ができました。
- ⑤会員相互の親睦をはかる行事を行う。
バスツアーと望年会で延べ38人の参加

上記の様に昨年とほぼ同じで会員相互の勉強会や懇親会、会報の発行は予定通りに進んだが署名や街頭宣伝など外へ訴えかけていく分野がまだ弱いことが分かります。一步を踏み出す時は少し勇気が必要ですが、今年こそ憲法9条を守り戦争できる国にしないため、皆で一步ずつ進みましょう。



♪ ♪ 戦後は続くよ どこまでも ♪ ♪